

ノア Smile

春日部セントノア病院

〒344-0001
埼玉県春日部市不動院野 1112-1
TEL048-760-1200
FAX048-760-1201
<https://www.saintnoah.jp/kasukabe/>



～目次～

- 病院短信 富永 眞由美
- 『認知症の方の介護技法その①、ユマニチュードについて』
- 患者さんの日常エピソード 渡辺 弘子
- いきいき看護・介護 石川 久仁江
- 栄養室だより 穴久保 沙耶香
- 誕生日会&父の日 各病棟デイルーム
- ご家族の声 

7月の予定

◆ 誕生日会&七夕会			
1病棟	7月	7日(火)	各病棟 デイルーム
2病棟	7月	7日(火)	
3病棟	7月	8日(水)	

誕生日会&父の日



父の日に職員手作りの大きなサイコロを患者さんが振って、すごろくゲームを楽しみました(*'▽')



ネクタイ！お似合いですね(^-^);

父～さん、お肩をたたきましょ～トントントン! (^~^)!



1階ロビーでは花を觀賞して、院庭では元気よく声を出して、みんなで歌を合唱しました(*'▽')



サヲ0歳時(*'▽')

「ご家族の声」

春日部セントノア病院のみなさんへ
いつも祖父がお世話になっております。
新型コロナウイルスが流行している中、人々の命をあすかり、懸命に働いてくださっているみなさんに本当に感謝しています。
今、マスクや除菌薬が不足しており医療の現場にもマスクがなかなか入ってこないとの話をききました。
ですので少しではあります。がマスク(大きめ・小さめ)を同封させていただきます。ちょっとしたお礼です。よければ使ってください。

今が一番みなさんにとっても私達にとっても大変で、とてもつらい時期ではありますが、明けの夜はないと思うので、助け合っていきましよう。
本当にいつもありがとうございます。くれぐれもお身体を大切に…。頑張れ！春日部セントノア病院!!

(5月に頂いた患者さんのお手紙全文です)

ノアSmileは職員だけでなく、患者さんやご家族の皆さまと一緒に作り上げていきたいと思っております。ご家族の皆さまのお声をお待ちしております。

『認知症の方の介護技法その①、ユマニチュードについて』

認知症の方のための介護技法には、幾つか体系立ったものがあります。その中でも一番代表的なユマニチュードですが、読んではいいても、なかなか実践には至らない人も多いようです。今回は私の経験を交えながら、ごく大まかに紹介してみたいと思います。

ご存じの方もいるかもしれませんが、ユマニチュードとはフランス語で「人間らしさ」を意味する言葉で、この技法はジネストらが40年近く前に作り出した知覚・感情・言語による包括的コミュニケーション法です。

理念は、「実ほどの技法でも唱えていることですが、認知症の方を尊重することで人間らしさを取り戻してもらうことです。介護する方にそのつもりはなくても、人として扱われていないと感じて認知症の方の心がすさむと信頼関係が損なわれて、介護される側もする側も不幸になります。信頼関係を回復するには、思いが大切で技法だけ実施してもほとんど効果は期待できません。

ユマニチュードの基本は4つあり①見つめる ②話しかける ③触れる ④立たせるといふものです。①は同じ目の高さで正面から約20cmのところまで近づき、長く見つめる ②は見つめながら、頻繁にやさしく前向きな言葉で満面の笑みを浮かべながら大きなジェスチャーで話しかける ③は語りかけつつ、背中や上肢などを包み込むようにして、やさしくさする ④は支えながら立たせるといふ技法です。

実践してみると基本的には、かなり病状の進んだ介護抵抗がある方などが対象だということがわかります。まったく意思疎通ができないと思っていた方が領いたり、時には短いながらも言葉が返ってきて驚くこともあります。一方自尊心がすっかり残っている、特にもともとプライドの高い方で意思疎通がある程度とれる場合は、しゃがんで正面から視線を合わせようとすると、ムっとされ不機嫌にさせてしまうことがあります。②の大きなジェスチャーでの頻繁な声かけも一方的になり、拒否されて沈黙されてしまうこともあります。これと比較して「さする」は、どんな方にも、かなり有効で硬い表情の方が急に穏やかになり劇的に心を開いてくれることがあります、怒声とも悲鳴ともつかない叫び声をあげて抵抗していた人が、急に叫ぶのをやめて手を振りほどこうともしないばかりか、こちらを見つめたりすることもあります。

このように基本的な技法を少し試しただけでも、全てではないまでも、かなり有効なものがあることがわかります。

ユマニチュードには150もの技法があります。その中から自分が思いを込めて出来るようなものを、いくつか選んで実行してみると、かなり違った反応が得られると思います。そんな時間も心のゆとりも少ないと思われるかもしれませんが、ちよつとした工夫だけで少しでも、場合によっては劇的に心が通じて介護抵抗も減るとしたら、ご本人の心も穏やかになり、介護の方の想いや労力も報われて、精神的負担や無力感が幾ばくかでも軽くなるのではないのでしょうか。



私が幼い頃、人間の寿命は平均して60歳くらいでした。その後、医療がめざましく発達し、今の時代100歳越えも珍しくなくなってきました。会社を定年してからの人生設計は、すごく重要な課題となってきました。同居する舅(87歳)が数年前より、アルツハイマー型認知症になってしまいました。車の免許更新の際、教習所での実技テストの結果を見た時に「認知症の疑い」と…。すぐに脳神経外科を受診し、ケアマネージャーと相談して、これからのデイサービスの利用変更など。

セントノア病院に入院される患者さんなのですが、家族の方々のご苦勞は、計り知れず大変だったと思います。

改めて、私たちの仕事は、大切な家族を看護・介護させて頂いているんだと実感しています。



患者さんの日常エピソード



今月は我が2病棟きっての美人さんのKさんを紹介します。

若い頃は薬剤師として大学病院に勤務され結婚退職。3児の母として子育てをしながら専業主婦の日々、子どもの洋服を作ったり料理も得意でしたとご家族は話されます。

ご主人さまに今回の掲載のことをお話し、病院での奥さまのご様子も伝え、お元気だった頃のことをお尋ねすると「いやあー、明るくて…、普通の主婦ですよ」と照れながらお答えいただきました。

Kさんは当院に入院され3年7ヶ月が経ちました。

当初は33kgとお痩せになって、不安げな表情。お声をかけても目を向けるだけで、無感動なところがありました。今はご家族のご協力のおかげで補助食品を併用したり、散歩やレクリエーションへの積極的な参加で表情も会話も明るくなりました。体重も44kgと回復され美しさに磨きがかかりました。おしぼりやタオル巻、エプロンたたみのお手伝いをよくしてくださいませ。職員や患者さんの名前を覚えることも得意で「ひろこさん、タオル出来ました」と私に声をかけてくださいませ。カラオケの18番は「ブルーライト横浜」です。とても可愛い声で唄われ、「アンコール！」の声がかかります。

2病棟 看護師長 渡辺 弘子

栄養室

だより

管理栄養士 穴久保 沙耶香



コロナウイルス予防のための「新しい生活様式」にも慣れてきたころでしょうか。ジメジメと暑い中、マスクの着用はつらいですね。マスクを着用しているとつい、水分補給を忘れがちになってしまいます。のどの渇きに気づいた頃では遅いと言われておりますので、水分補給は意識して行ってくださいね。

さて、梅雨は6月のイメージが強いですが、関東の梅雨明けは例年7月21日頃なので、まだまだ湿度の高い暑さが続きそうです。暑さで食欲がない時には、お酢・梅などの酸味や、生姜・茗荷・ネギなどの薬味、香辛料等を上手に取り入れるのがお勧めです。また、見た目の工夫も食欲を刺激するものです。

6月の献立から一つご紹介します。

具材にしば漬けを使った『あじさい寿司』です。爽やかな酸味と、梅の香りにポリポリとした食感、アクセントにいくらの塩味も感じられます。食べやすい様に半分に切った大葉を、あじさいの葉に見立てて添えることで、見た目にもかわいい散らし寿司が出来上がりました。



暑さで作ることも億劫になってしまう時期だからこそ、少しの手間と遊び心を加えてみることも良いかもしれませんね。これから来る夏本番に向けて、今の時期からしっかり食べて体力をつけましょう。